

□ 次の文は、人間国宝の能楽師大倉源次郎氏の自著についての挨拶文である。とりわけ芸能が「天下泰平・国土安穩」を祈願し、人々を祝福することに始まるという点は能楽にも、筆者にも貫かれている。よく読んであとの問いに答えなさい。

私はずっと、日本の伝統文化の中で「能楽」を見直すとはどういうことか？ という問いを考え続けてきました。私たちが生きたしるしをいかに次の世代へ伝えるか、その役目を引き継いで、^aピリヨクながら必死に精進してきました。

能は、変わらぬ伝統文化として七百年近く、日本人とともにあり続けてきたものです。(1)、今でもめでたいお席で謡われる『高砂』に、「言の葉草の露の玉。心を磨く種となりて」という詞章があります。和歌を詠むこと、和歌を詠うことの功德が記されているのです。

シテ かかるたよりを松が枝の、

地謡 言の葉草の露の玉。心を磨く種となりて、

シテ 生きとし生けるものごとに、

地謡 敷島のかげに寄るとかや。

松は常緑の針葉樹です。その生い茂る緑の葉は「言葉」の象徴です。そこに光り輝く露の玉のように美しい言葉を心に添え、集めたものが詩歌でしょう。

和銅五(七一二)年にまとめられた『古事記』の冒頭には、暗誦されていた神話や歴史を太安万侶が文字で書き記すにあたって大変に苦心した、ということが記されています。当時、日本で使われていた大和言葉を書き留めるため、漢字^①という漢^{かん}の国の文字に工夫を凝らし、日本オリジナルの文字使いがつけられました。^b「万葉仮名」です。

その文字を使い、天皇から防人までさまざまな人びとの美しい言葉、四千五百首を集めたものが『万葉集』で、その後にくく『古今和歌集』『新古今和歌集』など勅撰集の歴史は、現代も天皇家が受け継ぐ新年の「宮中歌会始」につながっています。

日本は言霊ことたまの幸さいはふ国こくにといわれます。夫婦の情けを知り、鬼神の心を和らげる美しい言葉、和歌をつくり続けたことこそが、日本の歴史・伝統の「柱」だったのです。

その和歌をテーマにした歌物語を絵解きしてゆく 芸術が能楽です。

能楽は、その後に続く文楽・歌舞伎・日本舞踊を生み出しました。その一方、歌物語が「見立て」の文化として生活に採り入れられ、自宅にいながら吉野の桜の茶会、龍田の紅葉の茶会を楽しむことを可能にしたのが茶道・花道・香道などです。

能の中でもっとも能らしい能、(2)「能にして能にあらざ」といわれる曲を挙げるとすれば、真つ先に『翁』を思い浮かべる方は多いのではないのでしょうか。

新年を言祝ぐ『翁』は、毎年新春、江戸城に全国の名を集めて上演されてきました。「百姓」を春の田植えのときからしっかりと守り、秋のシウカクを無事に迎えなければ、翌年翌々年の食料に困窮した時代です。

② 翁の面はニツコリと微笑んだ老人の顔ですが、平均寿命が四、五十歳の時代には理想の未来の象徴だったでしょう。③ 見方を変えると『翁』は、皆で力を合わせる結団式だったのです。

伝統文化に携わる者として、伝統の柱である美しい言葉を伝えて、理想の未来を手に入れることこそ、私たちのつとめと考えています。日本が日本であり続けるためには、国語……言霊教育をきちんとしないとダメです。④ こういう時代ですが、いえこういう時代だからこそ、たとえば教育の現場で謡曲を謡い、美しい日本語を伝えよう、といった提案をしたいのです。

歌を詠むという行為には、詠む人自身の感動や恋する心が込められています。詩歌が相手に届くということは、送られた側がその読解力・感受性をもとに言葉を理解することです。(3) 花として開くし実を結ぶ「種」にもなる。「心を磨く種となりて」とは、それを謡っているのです。

美しい言葉を集めて、それを伝える努力をすることは、「伝えた相手にきちんと読み解いてもらう」ということの訓練でもあるわけです。これは片方だけが一所懸命やってもダメでしょう。お互いがそれをやりとりする文化をハグクまないといけない、ということなのです。

『古事記』の時代から「言向け」「言問い」「言和らぎ」……仲よくした、ということがさまざまに書かれています。このよさをなんとか

して伝えたいのです。

この本では、一所懸命「能」を読み解こうとしてみました。なぜなら、今や能の心・解釈は「秘すれば花」では伝わらないからです。^⑦現代の私たちの身体でも、昔の人の気持ちを読み解けるように努力しないと、謡曲はもうわからない。悪くすると「そんな古い話はもうやめておけ」「知らなくていい」となってしまふ。

絶えず現代の私たちに置き換えて、能作者がこの現代に生きていたら何を言いたかったのか、ということ、観る方々とともに紐解きたい、というのが本書をつくったきっかけです。

本書は、舞台上で小鼓を演奏しながら私が感じてきたことや、謡曲の詞章から私なりに考えたことを語った対話を書き留め、再構成してつくりました。人から聞いたり書物で読んだことを採り入れてもいます。定説や歴史的事実からはずれたことも書いてしまっていると思います。

(4)、「これは間違っているな」と思われることが多いかもしれませんが、いずれ歴史の研究者や専門家の方たちのアドバイスをぜひ受けたいと思いますが、今の時点では私なりにこのように読み下し、解釈しております。「間違っているが、なるほど源次郎はそういうことを一旦は読み取ったんだな」とご寛恕いただければと思います。

注 能楽…室町時代に観阿弥・世阿弥親子によって大成された楽劇。「能」と「狂言」をあわせていう。

シテ…能の主役のこと。

地謡…舞台右手に座して、そろって詞章をうたう斉唱役。

言霊…言葉に宿ると信じられた説明しがたい力。

能楽『翁』…他の能楽に比べストーリーがなく、農耕神に起源があるともされている。

秘すれば花…世阿弥が「花伝書」において、他人に知られてしまえば価値を失うという意味を伝えた。

問一 ㄱ a、e の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に改めなさい。

問二 () 1~4に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア あるいは イ すると ウ たとえば エ ですから

問三 に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 大衆 イ 総合 ウ 舞台 エ 音響

問四 ~~~~~ A「功德」、B「勅撰」の意味としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | |
|----------------|-----------------|
| A 功德 | B 勅撰 |
| ア 人々のための苦勞 | ア 会議の上選挙すること |
| イ 公共への貢献 | イ 帝の命令により選ばれること |
| ウ 成功を人徳として扱うこと | ウ まっすぐで素直なこと |
| エ 功績に結びつく行い | エ 行政からの指示で決めること |
| オ 神仏から報われる善行 | オ 文化事業として行うこと |

問五 ㉑とありますが、なぜそのような必要があったのか、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 大陸の文化と距離をおく必要が生まれたから。
イ 漢字が役に立たなかったから。
ウ 日本固有の文字がなかったから。
エ 多くの人が漢字を覚えなから。

問六 ——— ② 「理想の未来の象徴」という理由はどこにあるのか、次から選び、記号で答えなさい。

ア さほど長く生きることができなかった状況で、長く生きることのできる姿を示しているので。

イ 長寿が権威や権力と結びつきやすく、その点で穏やかな面の作り方が平穏を表しているので。

ウ ニッコリとほほえむような顔つきの老人には出会うことがほとんどなく珍しいので。

エ 老いては子に従えという態度を翁面が表しており、家族の繁栄を願うことができそうなので。

問七 ——— ③ 「結団式」だったとされる理由を次にまとめてみたが、まちがっているものが一つある。次から選び、記号で答えなさい。

ア 理想の未来像を体した芸能者によって、人を集わせるためのありがたい儀礼に変化したため。

イ 農耕行事を始める時に行う行事が、その後の人々の作業の協力を促すようになったため。

ウ 稲作文化の中で田植え前などの心の高まりを、それ以後にも伝えることを意図していたため。

エ 翁の理想追求が村々の人間に向けていつしか多くの人になれ合いや集団を作りあげてしまったため。

問八 ——— ④ で、筆者は「提案したい」とまで言うが、端的に言えばその目的は何か。解答欄にあわせて本文から五字以内の言葉を抜き出しなさい。

問九 ——— ⑤ 「それ」とは何か。「心」という言葉を使って十五字以内で答えなさい。

問十 ——— ⑥ 「それ」とは何か。文中より五字で抜き出しなさい。

問十一 ——— ⑦とあるが、なぜ「伝わらない」と断言するのか。理由として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 室町時代に世阿弥が言った考えはすでに古くなっているから。

イ すっかり変わった現代の言葉では謡曲の知性がつかみきれないから。

ウ 魅力を醸し出す「秘す」という行為がかえって縁遠いものになってしまうから。

エ 普段の現代人の意思伝達の力や解釈力が、能の読解には十分ではないから。

③ 次の文を読んであとの問いに答えなさい。出題のために一部わかりやすく改めたところがある。

嶋子^{しまこ}少く^aより仙の行を好む。即ち船に乗りて江浦に魚を釣る間に、亀を得たり。亀即ち美女に変じて語りて曰く、「吾、昔^{なむち}汝と契^bりありて、遂げずして天^{てん}仙となれり。今、昔の契^{せき}りを遂げむがために汝が船に來たれり。本宮に將^cて至りて、早く素懷^{すわい}を察^{しら}かにせむ」と。(中略)

語りて云はく、「汝^②は下界の仙人なり。豈^③本郷を思ふらむや」と。子、「以て^④尔^しなり」と。仙の言はく、「君子は人を送るに言^{ことば}を以てし、小人は人を送るに財^{かね}を以てす。吾汝に語らふ。この玉の筥を開くこと勿^なれ。開かずは、また再び相逢^{あひあ}ふことを得む」と。

時に子、本郷に歸り了^おぬ。その郷、山となりあるいは海となりて、人跡永く長く絶えたり。古老^dの女に逢ひて問ひて云はく、「此の処は何と云うや」と。答ふらく「昔の嶋子が処なり」と。時に、蓬萊^④にありて、樂^{たの}びを経し間に、久しく過ぎたるを知りぬ。即ち愚かに筥を開けば、雲飛びて去りぬ。故に天仙の行皆失^うせぬ。時に仙に逢へらず、本郷に由無し。故に恋^⑤ては身を焦^あがし、悲しみては肝^{くた}を摧^{くだ}く。人の言^{ことば}を信ぜざるが故に、枯松の下に死せり。

(『注好選』より)

注 素懷…かねてよりの思い。

察^{しら}かに…くわしく。

問一 —— a～dの意味を次から選び、記号で答えなさい。

| | | | |
|---|------|---|---------|
| a | 少くより | ア | 若いときから |
| | | イ | 小さな思いから |
| | | ウ | 小さな村で |
| | | エ | すこしだけ |
| b | 契り | ア | 因縁 |
| | | イ | 前世からの約束 |
| | | ウ | 手紙のやりとり |
| | | エ | 夫婦となる約束 |

c 将て

-
- ア もって
 - イ 連れて
 - ウ ほとんど
 - エ 帝の命令で

d 古老の女

-
- ア 古い家の女性
 - イ 長老の奥方
 - ウ 年老いた女性
 - エ 集落の老人

問二 — ①「来たれり」とは、誰がきたのか、文中の漢字で答えなさい。

問三 — ②「汝」とは、誰のことか、文中の漢字で答えなさい。

問四 — ③「豈本郷を思ふらむや」とは、いったい何を尋ねているのか、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 故郷のことを忘れそうだというのですね。
- イ 故郷のことを忘れずにおいで下さい。
- ウ 故郷に心引かれることがあるうか。
- エ 故郷から帰ってきてほしいと言われるのですね。

問五 — ④「蓬萊」を、本文でどのように表現しているか、文中の漢字で答えなさい。

問六 — ⑤「恋ては身を焦がし、悲しみては肝を摧く」に用いられている表現技法を、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 擬人法
- イ 対句
- ウ 倒置法
- エ 枕詞

問七 ——— ⑥「人の言」とあるが、ここではどれに当たるか。十五字以内で抜き出しなさい。

問八 この話は、我々がよく知る昔話の古い異伝である。現在伝わる昔話の名称を答えなさい。

【三】 次のそれぞれの四字熟語の空欄に入る漢字を答えなさい。

- | | | | | | |
|---------|-----|----------|----|---------|----|
| A () | 致団結 | B 因 () | 応報 | C 一 () | 両断 |
| D 栄 () | 盛衰 | E 起死 () | 生 | F 我 () | 引水 |

【四】 次の——部の品詞を後から選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二度使っても良い)

僕は①小さい時に絵を描くことが好き②でした。僕の通っていた学校は横浜の山の手という所③にありましたが、そこ④は西洋人ばかり住んでいる町で、僕の学校も教師は西洋人ばかり④でした。そしてその学校の行きかえり⑤にはいつでもホテルや西洋人の会社などがならんでいる海岸の通りを通るのです。通りの海添いに立って見ると、真青⑥な海の上に軍艦だの商船だのが一ぱい⑤ならんでいて、煙突から煙の出ているのや、檣ほぼしから檣へ万国旗をかけたわたしたのやが⑤あって、眼がいたいように綺麗きれいでした。

(有島武郎「二房の蒲萄」冒頭部)

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|-----|---|------|---|-----|
| ア | 名詞 | イ | 動詞 | ウ | 形容詞 | エ | 形容動詞 | オ | 連体詞 |
| カ | 副詞 | キ | 助詞 | ク | 助動詞 | | | | |

国語解答

小計45点

| | | | | | |
|-----------------|---------|-------------|---------|------------|-----------|
| 二 問一 2点×5 | a 微力 | b まんよつがな | c 収穫 | d こんぎゆう | e 育まない |
|-----------------|---------|-------------|---------|------------|-----------|

| | | | | |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|
| 二 問二 2点×4 | 1 ウ | 2 ア | 3 イ | 4 エ |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|

二
問三
2点
ウ

| | | |
|-----------------|--------|--------|
| 四 問四 2点×2 | A オ | B イ |
|-----------------|--------|--------|

| | | | |
|-----------------|---|---------|---------|
| 五 問五 3点×3 | ウ | 問六 ア | 問七 エ |
|-----------------|---|---------|---------|

八
問八
3点
仲良く
するため

九
問九
3点
心が相手に届くということ

十
問十
3点
美しい言葉

十一
問十一
3点
エ

小計31点

| | | | | |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|
| 二 問二 3点×4 | a ア | b エ | c イ | d ウ |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|

| | | |
|----------------------------|----------------|---------------|
| 二 問二 2点 (「美女」でも可) | 問三 2点 嶋子 | 問四 3点 ウ |
|----------------------------|----------------|---------------|

| | |
|-----------------|---------|
| 五 問五 3点×2 | 問六 イ |
|-----------------|---------|

七
問七
3点
この玉の管を開くこと勿れ

八
問八
3点
浦島太郎

小計12点

| | | | | | | |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 三 問三 2点×6 | A 一 | B 果 | C 刀 | D 枯 | E 回 | F 田 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|

| | | | | | | |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 四 問四 2点×6 | ① ウ | ② イ | ③ ア | ④ キ | ⑤ ア | ⑥ エ |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|

小計12点